

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102301		
法人名	認知症対応型共同生活介護		
事業所名	北杜の郷 1丁目		
所在地	熊本市北区小糸山町718番地		
自己評価作成日	令和3年 3月 10日	評価結果市町村報告日	令和3年 4月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和3年 3月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p><法人理念> 「で愛」を大切にし、人と「ふれ愛」、お互いが「たすけ愛」の精神で取り組んでいる。</p> <p><施設理念> 1、リスクマネジメントが周知徹底された介護。 2、科学的根拠に基づく介護を行う。 3、地域社会の一員、地域に愛される施設を目指し、地域活動に参加し地域の人々との交流や関わりを大切にしたい施設を目指す。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「で愛・ふれ愛・たすけ愛」理念とする法人では保育園等の運営もされており、「子どもからお年寄りまで」をコンセプトに事業をされています。施設長の「職員同士、『ありがとう』を言いあおう」の考えのもと日々の業務が行われており、職員会議を通じて業務改善がなされています。開設以来、地域との関わり作りに取り組んできた3年間でしたが、今年度は感染症対策で思うような活動が難しかった状況が聞かれました。入居者に対しては、無理強いすることのない中にも日々メリハリをつけた生活が営まれており、職員面談では、家族の「穏やかに過ごして欲しい」を大切にしたい日々の様子が聞かれました。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、各ユニットのホールの壁に張り出し意識付けしている。管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「子どもからお年寄りまで」をコンセプトに考えられた法人理念は玄関の壁、パンフレット等に記載されている。職員入職時には、設立メンバーで考案された施設理念と共に意味を伝え、共有と実践に繋げている。	入職時には法人代表や管理者から理念についての説明がなされている様子が聞かれました。設立3年を機会に法人理念・事業所理念を改めて共有する場を設ける機会作りに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域のイベントや交流も少なくなっているが、事業者自体が地域の一員として交流していけるよう自治会長や民生委員との情報交換を電話等で行っている。	地域自治会に参加し、例年、総会や地域行事、一斉清掃への職員の参加を行っている。今年度は感染症予防の面で開催が難しい状況であった。自治会長は以前より度々来訪頂いていたが、今年度は電話による親睦が主であった。	事業所として町内会にも参加し、地域の一員としての生活の様子が窺えました。今後は入居者と地域の繋がりを感ずることの出来る取組みの広がりに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じて、コロナ禍での施設入居者の認知症の人の理解や支援の方法、又は職員の感染対策を地域の人に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施。6月実施から感染予防のため、文書にて事業所の取り組みや状況を報告。運営推進会議だけでなく、面会できないご家族からの電話等での意見をサービス向上に活かしている。	年6回開催される運営推進会議では、事業所、地域包括支援センター、地域、家族代表へ事業所の取組みを報告するとともに意見交換も行われている。今年度は書面での開催が殆どであるが、自治会長や家族との電話連絡で意見を得る機会を持っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者との会議等で直接会えないので、日頃から連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議への地域包括支援センターからの参加、入居者状況による役所との連絡等で協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が正しく理解できるよう全体ミーティングで「身体拘束について」再度研修し理解を深めている。また、ケア方法や課題を検討、継続している。	職員の理解を深めるため、施錠の考え方等、具体的な例を示して研修を行っている。1月の研修では「身体拘束と高齢者虐待との関係」「身体拘束がもたらす弊害」について学ぶ機会を持った。	会議や研修で職員の質の向上に努められています。身体拘束をしないケアを正しく理解するためには研修の継続と、家族の了解を得られたとしても他に方法がないかどうかを再度職員間で話し合う機会を設け、常に検討してケアの実践につなげられることを望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングを通じて高齢者虐待について研修を行い、理解を深めるよう周知している。また、資料を用いてしっかり理解し防止に努めている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて権利擁護や成年後見人制度をについて学ぶ機会を持ち、理解を深めるよう周知している。今後も関係者と話し合い、支援できるような体制をつくっていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前よりパンフレットを用いて入居料金や介護費についてはしっかり説明を行っている。事前に本人や家族に見学に来ていただき、疑問や不安に思っていることを聞き、納得していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議に家族代表が参加し、ホームに対しての意見や要望を議事録にまとめ、職員全員に閲覧して情報共有することで改善に努めていた。現在、コロナ禍の為に推進会議が開催されていないため、ケアマネジャーが電話にて本人様の近況報告をする際にご意見を伺い、他職員に情報共有している。	家族代表を運営推進会議のメンバーとし、意見を得ている。事業所では通院の家族付き添いを依頼しており、面会や電話連絡等、家族との関わりの機会に職員から意見を求める機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議に代表者も参加し、運営や業務について職員の意見や要望を言えるような場を設けてあり、速やかに検討し改善に努めている。	毎月の会議には施設長、代表も参加しており、運営に関わる意見も直接述べることができる。職員体制、休憩時間の取り方等、職員会議を経て決めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとに人事考課を実施し、各自の努力とやりがいに見合った環境づくりに努めている。また、給与基準の見直しなど職員の意見も取り入れ、検討改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップに必要な研修を受ける機会を勤務時間内に参加できるよう配慮している。また、資格取得の為の研修等に休みを入れやすい環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連合会の交流会や勉強会もコロナ禍で開催されないが、電話等での情報交換などを行っている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する前は、事前に施設内の見学や雰囲気を見ていただき、不安や要望を確認している。管理者や職員と顔合わせすることで顔なじみの関係性を作る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が困っている不安や悩み、今後の要望など可能な限り理解し、どのような支援が望ましいか一緒に考えていける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族を支援していくうえで必要としている支援を感じた際には、社会資源が使えるように地域包括支援センター・市役所等と連携を取りながら提供できる体制に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴やニーズを把握し、決めつけた介護や一方的な支援に繋がらないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に入居しても家族との関係性は継続し大切にしている。現在はコロナで面会制限ではあるが、可能な限り面会や病院受診等を協力してもらうような関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に入居しても親族や友人などの面会も可能な限り来所しやすい雰囲気作りに努めている。昨年からはコロナの影響で県外からの面会は事前に家族に連絡し、お断りを入れている。	入居者家族や友人等の面会も受入れ関係継続に努めているが、今年度は面会の受入れも難しい状況である。今年度は入居者と家族の関係継続を大切に、支援に取組んだ。入居者には農業経験者も多いため、プランターで花を植えたり野菜を育てたりと工夫している。	今年度は感染症予防の面から入居者以外の関係支援が難しい状況であったと思います。この状況が改善した後は、入居者と馴染みの人・場所等との相互訪問の機会作りに期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションで一緒に季節に合わせた制作物を作ったり、ゲームをしたりして語り合い笑いあえる関係性のある支援を行っている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の、その後の経過で医療関係や居宅等へ情報交換を行っている。また、電話や来所して相談できる関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人の生活歴、どのようにしたいのか」を日々の関わりでしっかり考え、それに応じた支援が出来るよう努めている。意思疎通の困難な場合は、家族と話し合い本人の意向に少しでも近づく支援に努めている。	事業所の方針として、本人の生活歴を大切に、「生活習慣を変えない」を基本としたケアを行っている。嗜好品の摂取や新聞を読んだり将棋をうったりと、入居者それぞれの趣味も大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との面談を通じて、本人の生活歴や最近の生活状況を把握し、支援に繋げるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活スタイルを把握し、本人のニーズに合った過ごし方を尊重するよう努めている。職員が個々の有する能力を把握し、自立支援を促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が本人・家族等と話し合っ把握した内容をアセスメントとして他職員と共有し、それぞれの意見を反映して介護計画書を作成している。	新規入所の際は入居者・家族等の関係者による話し合いで得た情報をアセスメントとして計画作成担当者が作成する。入所後のモニタリングはユニット毎の職員で現状を話し合い、計画作成担当者がまとめる。現状担当者会議の開催も難しく、都度電話で家族へ伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、日勤帯・夜勤帯と申し送りを行い、職員間の情報共有が出来ている。また、職員会議で個々の検討したいケアや気づきについて話し合い、介護計画書の見直しや家族との情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、コロナの影響で面会や外出を控えて頂き、施設内でいかに季節を感じて頂き、楽しんでいただけるか色々な行事を企画し努めている。施設内でヘアカットや看護師により病院受診など家族に安心していただける支援を行っている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人のニーズをもとに資源活動ができるように努め、意向に沿った支援が行えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望でかかりつけ医を選択していただいている。新しいかかりつけ医の相談や専門医の相談があった場合は、情報提供書を作成し協力医療機関との連携・情報交換を図っている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、入居時に近隣の協力医への変更を希望される例もある。基本的に通院は家族への協力を依頼しているが、難しい場合は職員同行も可能である。認知症や病状の変化・進行に伴い医療機関変更もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内服管理、次回受診の予定管理などは看護職が主に行っている。受診前には、状態の変化や相談したい内容を管理者・介護職とも情報交換し、指示や助言ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、情報報告書・看護サマリーを提供し、医療機関との情報交換を行っている。退院時には、病院側と連携を図りカンファレンスにできる限り参加し、情報共有・連携が取れる体制をつくっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では見取りを当施設では行っていない。しかし、契約時に今後どのような対応を望まれているかを確認したうえで重度化及び見取りに関する指針について説明を行っている。現在、見取りの支援に向けて訪問診療を3月から開始予定である。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明している。現状事例は無いが、実際にその時を迎えた際には、家族・関係機関と連携し、訪問診療の受入れも行い対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成し、職員に周知するようにしている。また、緊急時の連絡網を作成し、夜勤帯に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震に関するマニュアルを作成し、消防避難訓練を実施している。コロナの影響と入居者の体調を考慮して、2回目の訓練は職員会議で「消防、避難について」全体で話し合い、周知に努めている。	年2回の避難訓練を行っている。今年度は参加可能な入居者を交え、ベランダ側からの避難も訓練した。今年度は夜勤時の対応、緊急連絡網、職員での非常口の確認等勉強会を行った。避難訓練には調理担当者も必ず参加することとしている。	

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の居室への入室は、本人の了解を頂いている。本人の生活歴を把握し、個々の人権を尊重した声掛けに努めている。排泄や入浴など自尊心に配慮しながら支援を行っている。	入居者の居室は「家である」ことを職員間で徹底しており、一人ひとりを尊重した対応を行っている。日常生活での職員からの声掛けに工夫し、入居者による選択を促すようにしている。	日々の生活が安全で穏やかに過ごすことを念頭にした支援がされていることがわかりました。ホーム開所時からの職員体制も落ち着き、新しいホームのあり方を検討して行かれる事と察します。職員の支援と共に利用者ひとり一人の「力」を日常生活の場に取り入れて、職員と利用者が助けたり・助け合う暮らしの働きかけに期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者が自分で選択しやすいような質問を行い、少しでも本人の思いに寄り添った支援を行うことを心掛けている。入浴後の着替えも職員と一緒に何を着るか一緒に選択して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れはあるが、個々の体調やペースに合わせて過ごして頂いている。利用者の希望がすべて利用者にとって良いことか判断しながら、職員側の都合にならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時はパジャマから普段着に更衣される支援を行っている。女性は化粧・髪を整えるなどの身だしなみを意識されている。職員もその時間を大切に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に楽しく会話しながら食事をすることで個々の好みや食事摂取状況、嚥下状態などの情報を得ることが出来る。食事は調理師が季節にあった食事を提供している。レクリエーションで利用者と一緒におやつ作りを行い、自分で作って食べる楽しみを感じて頂いている。	事業所施設内で調理員による手作りの料理を提供している。献立は季節に合わせたもので、日々の食事に対する要望・希望等は管理者より調理場へ伝え、入居者個別の食事形態等は全て調理場にて対応している。午前中、入居者が調理場へ献立を聞きに行き、他の利用者へ献立を報告することが日課となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定を行い、増減が大きい場合は病院受診にて家族・医療機関と情報交換を行っている。それを基に家族と相談し、食事量などの調整の対応を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い自分で行ってもらっている。不自由なところは一部支援を行い、口腔内の清潔に努めている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が排泄パターンを把握し、声掛けして誘導を行うことで排泄の失敗も軽減されている。夜間がオムツやポータブルトイレを使用の利用者も日中はホール内のトイレでの排泄を促している。また、失禁やパット交換の対応も出来る限り同性介助で行い、自尊心への配慮に努めている。	ユニット毎に車椅子で利用可能なトイレが4ヶ所ずつ設備されている。個別のチェック表を利用する等で出来るだけの自立を支援する。入居者のその日の体調等で緊急性があれば、送りノートでの共有でポータブルトイレの使用等に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、歩行訓練などの運動を働きかけ、こまめに水分補給を行っている。排便のチェックを行い、状況によって主治医より下剤の処方を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴を実施している。個浴で対応しており、機械浴の対応もしている。事前に体調確認し、入浴の有無を判断する。入浴は自立支援を促し、個々の能力にそった支援を行っている。	基本的に一日おきの入浴を支援している。事業所内に一般浴槽と機械浴があり、入居者の身体状況により使い分けている。出来るだけ見守りで支援しているが、認知症の進行もあり、個々に合わせた対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活歴を把握し、状況に応じて居室で臥床されたりテレビ鑑賞されている。就寝時間も本人に合わせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬、点眼薬などは看護師が管理している。服薬ミスがないよう看護師が内服薬のセットの際は2重確認を行い、服薬時も職員同士で声掛けし2重確認を行っている。各ユニットに個々の薬情報が置いてあり、職員は周知し服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、花の好きな利用者に施設内の花を活けたり、手入れをお願いしている。歌の好きな人は、皆さんで懐かしい歌を聞いたり楽しみのある生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響でドライブや外出はできていない。天気の良い日に近所の桜を見に散歩に行ったり、外のプランターにお花や二十日大根の種を植えて収穫し、少しでも季節感を感じていただいていた。	例年、日常的・行事計画による外出も多く見られるが、今年度は難しい状況であった。事業所内にはお地蔵様がおられ、近隣に桜の木もあることから、今年度は敷地内や近隣の散歩が主であった。庭での野菜栽培、ひなたぼっこ等外気を感じる時間は日常的である。秋には久しぶりのドライブを楽しんだ。	

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時の契約時に家族と相談し、個々の能力に沿って本人が管理する金額を決めている。個々によっては施設側で管理し、本人の意思でお金が使えようように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居しても家族や友人との関係性は継続できる体制を作っており、家族にも事前に説明をしている。家族の協力もあり、入居されても家族との関わりが継続しているという安心感に繋がっている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとに居室横に共有のトイレが4カ所設置されている。ホールの中央にテーブルが設置されており、居室を出ると共有の空間が見えるという環境であり、安心できる空間づくりに努めている。	高齢化もあり、急な立上りへの配慮として入居者の姿が見渡せる環境であるホールでは、食卓やソファ等思い思いの場所で時間を過ごす入居者の姿がある。ソファの向きや位置は職員会議でリスクマネジメントを行い決めた。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも新聞を読んで過ごしたり、テレビ鑑賞をされる。またソファに座り、懐かしい音楽を聞きながら利用者同士で語り合ったり、職員と談話したり、個々の時間を過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族に相談し、居室に入るもので本人が使い慣れたものを持参して頂いている。本人の大切な家族の写真や装飾品を置き、安心できるような環境作りを家族と協力して行っている。	洗面台、ベッド、24時間対応の空調が完備された居室は、家族の関わりも見られ、入居者のそれぞれの生活にあった生活用品が持ち込まれている。以前は家族による衣替え等、生活に関わる姿もあったが、今年度は職員が主となり居室の設えを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーで車椅子でも支障はない。夜間の排泄でもトイレが居室の横にあることで、ホールでの排泄が出来るよう支援している。			

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102301		
法人名	認知症対応型共同生活介護		
事業所名	北杜の郷 2丁目		
所在地	熊本市北区小糸山町718番地		
自己評価作成日	令和3年 3月 10日	評価結果市町村報告日	令和3年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和3年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、各ユニットのホールの壁に張り出し意識付けしている。管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域のイベントや交流も少なくなっているが、事業者自体が地域の一員として交流していけるよう自治会長や民生委員との情報交換を電話等で行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践を通じて、コロナ禍での施設入居者の認知症の人の理解や支援の方法、又は職員の感染対策を地域の人に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施。6月実施から感染予防のため、文書にて事業所の取り組みや状況を報告。運営推進会議だけでなく、面会できないご家族からの電話等での意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者との会議等で直接会えないので、日頃から連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が正しく理解できるよう全体ミーティングで「身体拘束について」再度研修し理解を深めている。また、ケア方法や課題を検討、継続している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングを通じて高齢者虐待について研修を行い、理解を深めるよう周知している。また、資料を用いてしっかり理解し防止に努めている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて権利擁護や成年後見人制度をについて学ぶ機会を持ち、理解を深めるよう周知している。今後も関係者と話し合い、支援できるような体制をつくっていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前よりパンフレットを用いて入居料金や介護費についてはしっかり説明を行っている。事前に本人や家族に見学に来ていただき、疑問や不安に思っていることを聞き、納得していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議に家族代表が参加し、ホームに対しての意見や要望を議事録にまとめ、職員全員に閲覧して情報共有することで改善に努めていた。現在、コロナ禍の為に推進会議が開催されていないため、ケアマネジャーが電話にて本人様の近況報告をする際にご意見を伺い、他職員に情報共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議に代表者も参加し、運営や業務について職員の意見や要望を言えるような場を設けてあり、速やかに検討し改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとに人事考課を実施し、各自の努力とやりがいに見合った環境づくりに努めている。また、給与基準の見直しなど職員の意見も取り入れ、検討改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップに必要な研修を受ける機会を勤務時間内に参加できるよう配慮している。また、資格取得の為に研修等に休みを入れやすい環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本県地域密着型サービス連合会の交流会や勉強会もコロナ禍で開催されないが、電話等での情報交換などを行っている。		

グループホーム北社の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する前は、事前に施設内の見学や雰囲気を見ていただき、不安や要望を確認している。管理者や職員と顔合わせすることで顔なじみの関係性を作る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が困っている不安や悩み、今後の要望など可能な限り理解し、どのような支援が望ましいか一緒に考えていける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族を支援していくうえで必要としている支援を感じた際には、社会資源が使えるように地域包括支援センター・市役所等と連携を取りながら提供できる体制に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴やニーズを把握し、決めつけた介護や一方的な支援に繋がらないよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に入居しても家族との関係性は継続して大切にしている。現在はコロナで面会制限ではあるが、可能な限り面会や病院受診等を協力してもらうような関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に入居しても親族や友人などの面会も可能な限り来所しやすい雰囲気作りに努めている。昨年からはコロナの影響で県外からの面会は事前に家族に連絡し、お断りを入れている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションと一緒に季節に合わせた制作物を作ったり、ゲームをしたりして語り合い笑いあえる関係性のある支援を行っている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の、その後の経過で医療関係や居宅等へ情報交換を行っている。また、電話や来所して相談できる関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人の生活歴、どのようにしたいのか」を日々の関わりでしっかり考え、それに応じた支援が出来るよう努めている。意思疎通の困難な場合は、家族と話し合い本人の意向に少しでも近づく支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との面談を通じて、本人の生活歴や最近の生活状況を把握し、支援に繋げるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活スタイルを把握し、本人のニーズに合った過ごし方を尊重するよう努めている。職員が個々の有する能力を把握し、自立支援を促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が本人・家族等と話し合っ て把握した内容をアセスメントとして他職員と共有し、それぞれの意見を反映して介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入し、日勤帯・夜勤帯と申し送りを行い、職員間の情報共有が出来ている。また、職員会議で個々の検討したいケアや気づきについて話し合い、介護計画書の見直しや家族との情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、コロナの影響で面会や外出を控えて頂き、施設内でいかに季節を感じて頂き、楽しんでいただけるか色々な行事を企画し努めている。茶話会で紅茶を飲まれたり、お正月に酒(ノンアルコール)を飲まれたり、柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人のニーズをもとに資源活動ができるように努め、意向に沿った支援が行えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望でかかりつけ医を選択していただいている。新しいかかりつけ医の相談や専門医の相談があった場合は、情報提供書を作成し協力医療機関との連携・情報交換を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	内服管理、次回受診の予定管理などは看護職が主に行っている。受診前には、状態の変化や相談したい内容を管理者・介護職とも情報交換し、指示や助言ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、情報報告書・看護サマリーを提供し、医療機関との情報交換を行っている。退院時には、病院側と連携を図りカンファレンスにできる限り参加し、情報共有・連携が取れる体制をつくっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では見取りを当施設では行っていない。しかし、契約時に今後どのような対応を望まれているかを確認したうえで重度化及び見取りに関する指針について説明を行っている。現在、見取りの支援に向けて訪問診療を3月から開始予定である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成し、職員に周知するようにしている。また、緊急時の連絡網を作成し、夜勤帯に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震に関するマニュアルを作成し、消防避難訓練を実施している。コロナの影響と入居者の体調を考慮して、2回目の訓練は職員会議で「消防、避難について」全体で話し合い、周知に努めている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の居室への入室は、本人の了解を頂いている。本人の生活歴を把握し、個々の人権を尊重した声掛けに努めている。排泄や入浴など自尊心に配慮しながら支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者が自分で選択しやすいような質問を行い、少しでも本人の思いに寄り添った支援を行うことを心掛けている。入浴後の着替えも職員と一緒に何を着るか一緒に選択して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の流れはあるが、個々の体調やペースに合わせて過ごして頂いている。利用者の希望がすべて利用者にとって良いことか判断しながら、職員側の都合にならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時はパジャマから普段着に更衣される支援を行っている。男性は髭剃り、女性は化粧・髪を整えるなどの身だしなみを意識されている。職員もその時間を大切に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に楽しく会話しながら食事をすることで個々の好みや食事摂取状況、嚥下状態などの情報を得ることが出来る。食事は調理師が季節にあった食事を提供している。レクリエーションで利用者と一緒におやつ作りを行い、自分で作って食べる楽しみを感じて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定を行い、増減が大きい場合は病院受診にて家族・医療機関と情報交換を行っている。それを基に家族と相談し、食事量などの調整の対応を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い自分で行ってもらっている。不自由なところは一部支援を行い、口腔内の清潔に努めている。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員が排泄パターンを把握し、声掛けして誘導を行うことで排泄の失敗も軽減されている。夜間がオムツやポータブルトイレを使用の利用者も日中はホール内のトイレでの排泄を促している。また、失禁やパット交換の対応も出来る限り同性介助で行い、自尊心への配慮に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、歩行訓練などの運動を働きかけ、こまめに水分補給を行っている。排便のチェックを行い、状況によって主治医より下剤の処方を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴を実施している。個浴で対応しており、機械浴の対応もしている。事前に体調確認し、入浴の有無を判断する。入浴は自立支援を促し、個々の能力にそった支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活歴を把握し、状況に応じて居室で臥床されたりテレビ鑑賞されている。就寝時間も本人に合わせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬、点眼薬などは看護師が管理している。服薬ミスがないよう看護師が内服薬のセットの際は2重確認を行い、服薬時も職員同士で声掛けし2重確認を行っている。各ユニットに個々の薬情報が置いてあり、職員は周知し服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、職員と将棋をされたりカラオケをして楽しまれている。また、男性利用者は気分転換としてビール(ノンアル)で家族が持参されたお菓子を食べながら、職員と乾杯して喜ばれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの影響でドライブや外出はできていない。天気の良い日に近所の桜を見に散歩に行き日光浴を行い、季節感を感じていただいていた。		

グループホーム北杜の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時の契約時に家族と相談し、個々の能力に沿って本人が管理する金額を決めている。個々によっては施設側で管理し、本人の意思でお金が使えようように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居しても家族や友人との関係性は継続できる体制を作っており、家族にも事前に説明をしている。家族の協力もあり、入居されても家族との関わりが継続しているという安心感に繋がっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとに居室横に共有のトイレが4カ所設置されている。ホールの中央にテーブルが設置されており、居室を出ると共有の空間が見えるという環境であり、安心できる空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも新聞を読んで過ごしたり、テレビ鑑賞をされる。またソファに座り、懐かしい音楽を聞きながら利用者同士で語り合ったり、職員と談話したり、個々の時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族に相談し、居室に入るもので本人が使い慣れたものを持参して頂いている。本人の大切な家族の写真や装飾品を置き、安心できるような環境作りを家族と協力して行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はすべてバリアフリーで車椅子でも支障はない。夜間の排泄でもトイレが居室の横にあることで、ホールでの排泄が出来るよう支援している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業名 グループホーム北杜の郷

作成日 令和3年4月20日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	理念を新人職員またはスタッフ個々が理解しているか不透明である。	スタッフ一人一人が、理念・方針・目標を理解しそれに沿った適切な対応を入居者に提供することができる。	①職員ミーティングの場で理念、方針について振り返りやスタッフの考えを共有する。 ②新人研修の行い理解を深める。	12ヶ月
2	26	(来所が出来ない中ではあったが) サービス計画書の説明・署名が遅れていた。	各スタッフが入居者個人の計画を理解し、計画作成者と連携して迅速にモニタリングを行う。	①サービス計画書をスタッフが閲覧しやすいところに設置。 ②サービス計画書の説明、ケアの方向性を共有。 ③スタッフが個々の状況報告書を作成することにより、ケアプランの把握に繋げる。 ④ケアカンファレンスをユニットごとに継続的に実施（情報の共有ケアの統一に繋げる）	12ヶ月
3	6	個々のスキルアップの場が欠けていた	研修を通して、個々の意識向上、スキルを上げることにより適切な対応を提供することができる。	①職員ミーティングの場で「認知症」「身体拘束について」等の研修を継続的に実施する。 ②新人研修を行い、理解を深める。 ③外部の研修、講習会を活用し個々のスキルアップを向上する。	12ヶ月
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

